

登録No. S-102
 登録名 Pembrolizumab療法
 催吐性リスク 最小度
 適応疾患 MSI-Highを有する固形癌・PD-L1陽性食道扁平上皮癌
 投与スケジュール

	薬剤	投与量	最大投与量	投与日	投与経路	投与時間	備考
Rp.1	ペムブロリズマブ 生食	①：200mg/body ②：400mg/body 100mL/body		d1	d.i.v.	30min	インラインフィルター (0.2~5μm)使用

1クルルの期間 ①：3週間、②：6週間

その他（副作用・PS規定等）

注意が必要な副作用 間質性肺疾患、大腸炎・重度の下痢、重度の皮膚障害、神経障害、肝機能障害、甲状腺機能障害
 下垂体機能障害、副腎機能障害、1型糖尿病、腎機能障害、肺炎、筋炎・横紋筋融解症、重症筋無力症
 心筋炎、脳炎・髄膜炎、infusion reaction、ぶどう膜炎
 グレードにより再開、休止、中止規定あり
 G2のinfusion reactionが起きた場合は、本剤の投与を直ちに中止。
 1時間以内に回復する場合には投与速度を50%減速して再開。次回、投与時は規定の速度（30分）で投与可。

注意点： 最終濃度は1~10mg/mLとする
 開始前に十分な経験を有する病理医または検査施設における検査により、MSI-Highが確認された進行・再発の固形癌患者に投与すること。
 結腸・直腸癌の場合： フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤、オキサリプラチン及びイリノテカンによる治療歴のない患者には
 本剤の有効性及び安全性は確立していない。
 結腸・直腸癌以外の固形癌の場合： 本剤の一次治療における有効性及び安全性は確立していない。
 また、二次治療において標準的な治療が可能な場合はこれらの治療を優先すること。